

事業体名	東京都水道局		事例番号	No. 6
協力先水道事業について			情報年	2011-2014
協力先事業体	マレーシア エネルギー・環境技術・水省 (KeTTHA)、ペナン水道 (PBAPP)			
協力開始年	2014年1月～2016年11月			
給水区域	ペナン州			
給水人口	都市部：不明 地方部：不明 計 164.6 万人 (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	水道普及率	都市部：100% 地方部：99.7% (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	
平均配水量	81.3 万 m <sup>3</sup> /日 (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	最大給水量	不明	
1人1日当たり 水使用量	不明	無収水率	18.25% (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	
主要水源	河川水 (PBAHB 社 HP より)	配水管総延長	4,294km (100mm 以上) (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	
浄水施設数	10ヶ所	水道職員数	1,263人 (PBAHB 社 Annual Report2014 より)	
主な浄水 処理方法	薬品注入+凝集沈でん+ろ過 (PBAHB 社 Annual Report2014 より)			
水道料金	0.074JPY/10m <sup>3</sup> (1JPY≒0.03MYR) (PBAPP 社 HP Tariffs2015、2015年5月26日時点レート)			
協力先事業体【マレーシア エネルギー・環境技術・水省】への協力実績				
協力の経緯や 背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2010年以来、東京での水道施設見学や技術研修を通じ、技術協力を中心とした信頼関係を構築</li> <li>■ 2011～13年 JICA 草の根技術協力事業にて現地と日本国での水道技術研修（無収水削減対策等）を実施</li> <li>■ 2012年 KeTTHA の水道局長から東京都水道局長へ無収水削減対策への協力要請</li> <li>■ 上記の草の根技術協力以降も、マレーシア側から人材育成の要請あり</li> </ul>			
協力体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 協カスキーム 草の根技術協力事業</li> <li>■ 相手国機関 マレーシア国エネルギー・環境技術・水省 (KeTTHA)、ペナン水道 (PBAPP)</li> <li>■ 日本側支援機関 東京水道サービス株式会社 (東京都水道局)</li> </ul>			
協力事業体の 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安定した水道経営</li> <li>■ 無収水削減対策に寄与できる人材の育成</li> </ul>			
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 漏水防止及び配管技術実習フィールドの整備・活用</li> <li>■ ペナン水道職員を対象とした「無収水削減対策」の専門家（15名）の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務従事者を派遣して、技術的指導を実施</li> <li>● 研修員を受入れ、日本の優れた技術・施工管理・品質管理を学ぶ研修を実施</li> </ul> </li> <li>■ ペナン水道職員が講師としてマレーシア全州を対象とした研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務従事者を派遣し、研修用の教材の作成と、それを活用した研修の実施のための指導</li> <li>● ワークショップを開催し、ペナン水道職員が各州の選抜研修生（計77名）を対象に、無収水対策の実技研修を実施</li> </ul> </li> </ul>			

今後の支援に向けた課題や展望

- 本事業にて、講師育成のほか、研修フィールド整備や研修テキスト作成など、事業終了後も、東京水道の技術・ノウハウに基づいた人材育成を図れる体制を整えた。この体制を活用し、今後も引き続き人材育成を図っていく。

写真



▲整備後の研修フィールド



▲研修フィールドでの研修風景



▲集合写真